

「革細工」の指導手順

準備物一覧

★交流の家準備物

- ①革【人数分】
 - ②型紙用の紙【人数分】
 - ③チェーン【人数分】
 - ④黄色のカゴ【班数分】
- [ゴム台 6、木づち 6、刻印棒（絵柄 17、英字 28、数字 9、モデラ 1）、水入れ容器 1、パレット 1、革用はさみ 3、紙用はさみ 6、染料 5、レザーコート 1、筆 6、回転式穴あけパンチ 1、ものさし 3、コンパス 1、消しゴム 1、ボンド 1]
- ⑤毛布【班数分】
 - ⑥タンポ【必要分】
 - ⑦見本【班数分】
 - ⑧そうきん【2～3枚】
 - ⑨ゴミ袋【必要数】
 - ⑩指導手順・説明用資料【各 1 部】

★団体準備物

新聞紙・鉛筆・消しゴム

指導内容

0. 会場を準備する



- ①6人ずつの班に分かれ、机・椅子を向かい合わせにする。
- ②説明用資料をホワイトボードにはる。

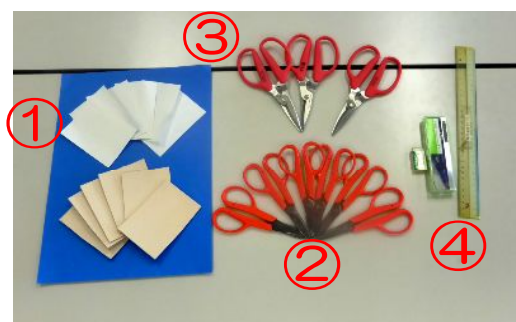
1. どのパターンにするか決める

パターン1 張り合わせ	パターン2 1枚もの	パターン3 その他
		
同じ形に切った2枚の革を張り合わせて作ります。両面に刻印ができます。	革1枚を大きく使って作ります。表面のみ刻印ができます。	小さな革を組み合わせて作ります。立体的にしたり、たくさん重ね合わせたりします。

- ①3つのパターンから、どのように革を切るか、考える。
- ②模様や色（5色）も参考にする。

2. 革を切る

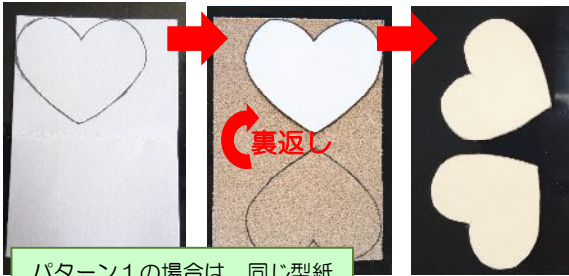
(1) 道具を机の上に準備する。



- ①型紙・革（人数分）、②紙用はさみ（人数分）
- ③革用はさみ（人数分）
- ④コンパス・消しゴム・ものさし（必要に応じて）を準備する。

(2) 革を切る

型紙に好きな形をかいて、紙用はさみで切る。革に型紙をあて、鉛筆でふちどり、革用はさみで切る。



パターン1の場合は、同じ型紙を使って、表と裏で2個つくる。

①型紙に好きな形をかく。

※パターン1（張り合わせ）の場合は、型紙半分の大きさにする。

③紙用はさみを使って、紙を切る。

④型紙を革の裏面において、鉛筆でふちをなぞる。

⑤革用はさみを使って、革を切る。

注意

パターン1の場合は、張り合わせるので、必ず型紙を裏返してふちどる。

3. 模様を刻印する

(1) 道具を机の上に準備する。



①毛布を机の上にひく。

②ボールに水をくんでくる。

③刻印棒をおく。

④ゴム台と木づちを人数分おく

(2) 革を水でぬらす。



刻印をつけたいところに、ボールから手で水をすくって、ぬらす。

注意

革をボールにつけて直接ぬらすと、革がふにゃふにゃになってしまうので、手ですくってぬらす。

(3) 刻印棒で模様を打つ。

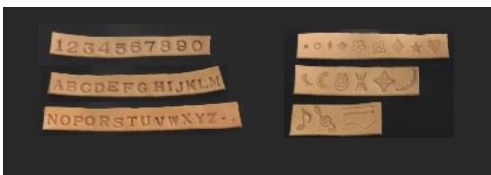


①ゴム板の上に革を表を上しておく。

②つけたい模様の刻印を革にあて、木づちでたたく。

注意

力を入れすぎると、革に穴があいてしまうので、必ず余った革で練習してから行う。



3. 色を塗る

(1) 道具を準備する



- ①新聞紙を机の上にひく。
- ②白のパレットと、筆を5本、染料を5本、机の上に出す。

注意

- 筆5本は5色の色によって使い分ける。
- 柄が黒い筆はレザーコート用なので、ここでは使わない。

(2) 筆を使って、色を塗る。



色の塗り方の違い



- ①使いたい染料をパレットに出す。
- ②筆を使って、色を塗る。
- ③タンポで色を塗りたい場合は、配る。

注意

- タンポは数に限りがあるので、色を分けて、交代しながら使う。使い捨てになる。

4. ボンドで張り付ける



ボンドで張り付ける場合は、裏面にボンドをぬり、張り付ける。

5. パンチで穴をあける



チェーンをとおす場所にパンチで穴をあける。
大きさは2・5～3がよい。

注意

- 2枚重なっているときはかたいので、思いっきり押す。
- 心配な場合は余った革で練習するとよい。

6. レザーコートを塗る



レザーコートをぬってつやを出す。
黒い柄の筆を使う。

7. チェーンをとおして完成!



レザーコートがかわいたら、チェーンをとおす。
※かわいていないときは、先に片付けなどを行う。

8. 片付け・掃除をする

- ①筆・パレット・ボールを洗う。
- ②刻印棒の数を確認し、整理して箱に片付ける。
- ③片付け方の資料を参考に、黄色いカゴの中に道具を片付ける。
- ④毛布をたたむ。
- ⑤黄色いカゴと毛布を倉庫の中へ片付ける。
- ⑥床や机の上をモップやそうきんできれいにし、机・椅子を元どおりに戻す。
- ⑦「活動後確認カード」にチェックし、活動で出たゴミとともに事務室へ持ってくる。